

本当に困っている人と つながるために ～食支援からはじまる見守りの芽～

根岸地区社会福祉協議会 会長 須川 さよ子
根岸地域ケアプラザ 生活支援コーディネーター 坂井 真砂子
磯子区社会福祉協議会 藤井 春菜

1. 根岸地区概況

【磯子区】



- 横浜市 of 東南に位置する細長い区
- 最寄り駅は、JR根岸線根岸駅
- 古くは、「根岸村」と呼ばれ、海岸を利用した海苔の養殖が盛んだった。また、近隣に米軍根岸住宅があり、牧場などもあった
- 横浜プールセンター（通称マンモスプール）、根岸なつかし公園などがある
- 海岸沿いの埋立地には、大規模な石油コンビナートがある工業地帯



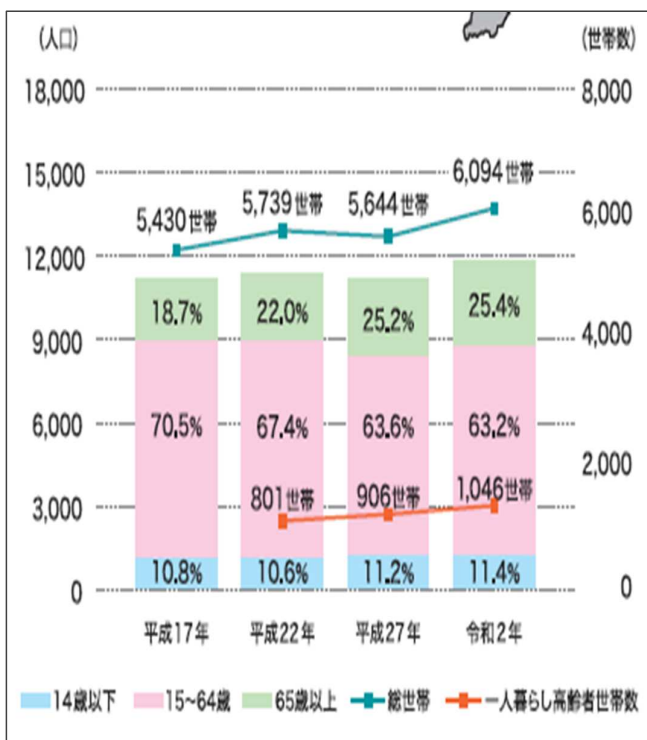
【根岸地区】



【根岸なつかし公園】



【横浜プールセンター】



- 駅周辺の大規模マンションと代々住んでいる戸建て住宅地で構成されている。
- 近年は、若い世帯の流入が多く、生産年齢人口も増加傾向にある。
- 住民の結びつきが強い「下町らしさ」のある町。

第4期磯子区地域福祉保健計画 (スイッチON磯子) 根岸地区スローガン

「ささえあう、やさしい町、 ねぎし」

根岸地区 NEGISHI AREA

地区の現状

項目	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
人口	11,115	11,020	11,020	11,222	11,222
世帯数	3,264	3,264	3,264	3,264	3,264
15歳未満人口	2,811	2,814	2,804	2,817	2,817
65歳以上人口	4,066	4,066	4,066	4,066	4,066
高齢化率	36.5%	37.0%	36.9%	36.2%	35.7%
一人あたり 員数	1,452	1,379	1,484	1,394	1,394
一人あたり 員数	881	881	1,044	1,044	1,044

<地区の特徴>

- JR根岸駅周辺、八幡横付近、浜には主要な商業施設がある。一方で高齢者等にとって買い物が行きにくい地区もある。
- 根岸駅前等には新しい集合住宅が建っている地域があり、全体の高齢化率が抑えられている地域と、古くからある集合住宅がにより地区によっては高齢化が進んでいる地域もある。
- 駅からの往復の駅びつが狭く、通勤駅内を中心に高齢化されている。一方で新しい集合住宅が建っている地域では新しい住民が増えている。
- ボランティア活動や住民同士の支え合いへの参加にも熱心に取り組む地区である。

<活動紹介>

自主活動があるまちで成長が行われています！

4期計画で力を入れたいこと

★今まで行ってきた見守りをさらに深く、みんなで互いにやさしい見守りができる根岸を目指します

- 隣近所や周りの人をみんなで互いに助けあう関係を作り、地域の中にも必要な見守りの仕組みや活動があれば、新田をめざして行進していきます。
- 隣近所ややさしい見守りができることや、見守りポイントのポイントをみんなで考え、共有し、互いに支え合っていく関係づくりをしていきます。
- 地域の見守りの輪をさらに広げ、地域ケアプラザ等ともつながって行きます。

★継続した健康づくりができる輪を広げます

- 活動が継続できるような、まち全体で活動が共有できる取り組みを行います。

★話し合いの場を通して、まちの困りごとを共有し、ささえあうまち根岸を目指します

- 継続やよっとした話し合いの場を大切に、活動の中心の一人一人の声を聞き上げ、「ハッピー根岸」をはじめ根岸地区全体のまちづくりで取り組んでいます。

★活動内容を工夫し、もっとみんなが楽しめる場をつくります

町の中の活動や人材を再発見し、つながります

- 他の活動団体の取り組みや工夫を共有し、お互いに良いところは取り入れながら継続した活動ができるようにします。
- 地域の中身を豊かにしている人を見つけて活動の質を、教えてもらったりしながら活動を広げていきます。

★意識を高く

- 新しく参加した人には声かけを心掛け、その人がその場にしやすい雰囲気になるよう工夫をしていきます。

ご近所や周りの人をみんなでお互いに気にかける関係を作り、やさしい見守りができる町、困りごとを共有できるささえあう町を目指し、様々な地域活動を展開している。

2. コロナ禍で見えた課題

- 退職・休職・勤務時間短縮などによる減収
- 区社協の貸付や食支援の相談が急増

→潜在的に困っている人がいるかもしれない。

地域の方から頂いた寄付物品を、活用することはできないか。

すべての住民を対象とした食品配分会があったらいいな。

地区社協の思い

- ケアプラザ・区社協からの提案にはじめは戸惑った。
- 困っている人からの声や情報があまりなかった。
- イベント的に行っている食支援は、本当に困っている人に届いているのか疑問に感じた。
- まずは、寄付を募ることから始めてみたい。

3.三者で話し合い

フードドライブの話をもちかけたが・・・

「初めてだし、不安。生活困窮世帯への支援に
地区社協で取り組むのは、荷が重い。」

困っている人に寄り添うことが
できる地区社協と
一緒に取り組みたい

不安な気持ちや期待を
受け止め、何度も話し合い

それぞれの立場で出来ることを確認し合い、
三者が連携することで困りごとを抱えている
人に届く取り組みになることを確認。



フードドライブプロジェクト概要

- 目的
- ①お互いに助け合う仲間を増やす
 - ②地域組織・地域資源を知ってもらう
 - ③個別の困りごとを把握する

主催 根岸地区社協・根岸地域ケアプラザ・磯子区社協

協力 根岸地区連合町内会

- 内容
- ①フードドライブ（寄付）
 - ②フードパントリー（食品配分会）

周知 チラシの掲示・回覧・配架



4. 第1回フードドライブプロジェクト

令和3年10月

打ち合わせ

連合町内会への協力依頼

11月8日～12月3日

フードドライブ（寄付）

地域から多くの寄付が集まった

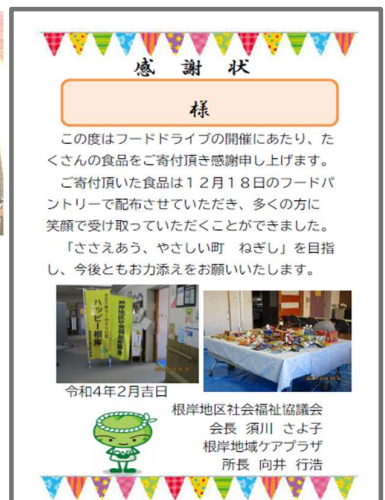
12月18日

フードパントリー（食品配分会）実施

9世帯が利用



【寄付品】



【寄付者に向けたお礼状】

準備の工夫

- 生活状況に合わせて渡したい
→ 家族構成・家族の年齢・使用している調理器具・食糧の支援が必要な理由を申込書で把握
- 若い世代にも利用してもらいたい
→ 申込方法は電話・FAX・QRコードを用意
- 本当に困っている人へ情報を届けたい
→ チラシを町内会の掲示板へ掲示・回覧板・関係機関への配架・ポスティング

配分会の様子

【それぞれの家庭状況に合わせたセット】

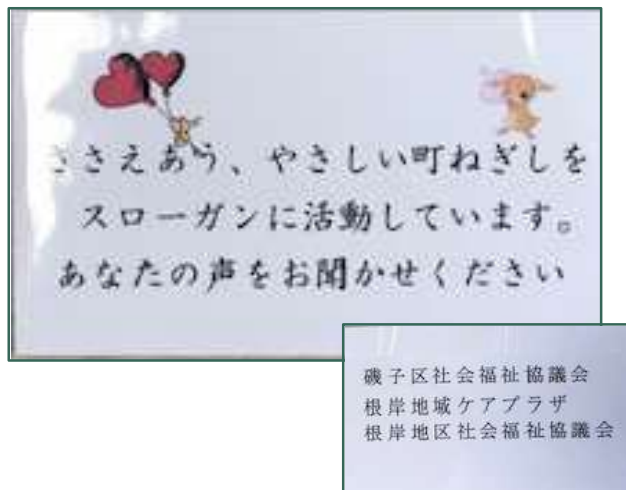


- 申込時に把握した内容を参考に、家族構成や生活状況に合わせたセットを準備。
→ 子どものいる世帯にはお菓子を多めに。
→ 炊飯器のない世帯にはレトルトご飯を用意。



【自由に選べる物品も用意】

【地区社協から参加者へのメッセージカード】



【参加者にアンケート調査】

- 「今後も開催を希望されますか」
- 「どのような食品を希望しますか」
- 「寄付者へのメッセージをお願いします」などの項目を設けた。

実施後のふりかえり

- 事前申し込み制にしたことで、
本当に困っている人に届けることができた
- 利用された方は氷山の一角かもしれない
- 遠慮して相談できない人もいる。周囲の声かけも大切では
「困っている人がもっといるのかもしれない」

➡令和4年度の地区社協の事業計画に盛り込んだ

5.第2回フードドライブプロジェクト

令和4年

5月30日～6月29日

フードドライブ（寄付）

7月1日（土）フードパントリー

（食品配分会）実施

14世帯が利用



【セブンイレブンの寄付を活用した
日用品コーナー】

工夫したこと

- 「フードパントリー」では伝わりにくいかもしれない
→チラシのこたばを「食品配分会」に変更。
地域の方からもわかりやすいとの声があった。
- 子育て世代にも届けたい
→小中学校のご協力によりチラシを全校配布
することができ、家族世帯からの申し込みが
増えた。

- 第1回目に子どもが嬉しそうにお菓子を選んでいた
→手に取りやすいように、子ども向けコーナーを作り
お菓子や文房具を用意
- 暑さ対策のため、お茶コーナーを設けた
→地域の方のさりげない聞き取り、
話しやすい雰囲気づくりにつながった
- 困っていることを相談できる場であることを伝えたい
→「なんでも相談窓口」を設置

配分会の様子



【子ども向けコーナー】



【ほっと一息。お茶コーナー】



【赤ちゃん用品をお渡し】

あたたかく声を
かけてもらえて
嬉しかった

また利用
したい

お茶コーナーではサロンのような雰囲気でお話を聞くことができた。
ひとり親家庭で子どもが複数人いる、コロナの影響で仕事が減った、
物価の高騰や光熱費の値上がりで生活に影響が出ている・・・などの事情を抱えていることがわかった。

食支援をきっかけに
つながりをもつことができた

6. 困りごとへの対応

● ひとり親家庭

転入してきたばかりの子ども3人の母子家庭。生活用品・家電・学校用品を購入する資金が少ない。

→ボランティアによる手作り給食袋等の提供、学校からもお礼の言葉が・・・

● 介護離職をし、生活に困窮している女性

1 回目は、人混みが苦手のため、会場に入らず、職員とのみ会話。

2 回目は、会場に入り、会長と今の生活状況について、談話し、必要としている品物を要望していた。

7. 気持ちに変化が・・・



困っている人を支援機関や地域につなぐ必要があると感じた。見過ごされている人のためにも、もっと活動を広めたい。

身なりがきれいな方が多かったが、話を聞くといろいろな事情を抱えている人がいる。継続的に実施することで、その人との信頼関係が築けることがわかった。

イベント的な配分会もあるが、事前申し込み制にすることで、本当に困っている人が申し込んでいた。その人を今後、私たちがどう見守っていくのか考える必要がある。



8. 今後に向けて

食支援をきっかけに芽生えた
つながりの芽を伸ばし、
自然な見守りのできる町を
目指していきたい



第3回フードドライブプロジェクト 令和5年2月実施予定

ご清聴ありがとうございました



【掘割川から根岸地区を臨む】

ささえあう、やさしい町、ねぎし